

学校運営協議会 議事録

校名	府立たまがわ高等支援学校
校長名	坂田 定之

開催日時	令和6年3月11日(月) 10:00 ~ 11:10
開催場所	たまがわ高等支援学校 会議室
出席者(委員)	協議会委員6名 委員長:土口千恵子(四天王寺大学 教授) 【以下五十音順】 織田千穂(府立たまがわ高等支援学校 PTA会長) 岡本弘美(たまがわ会 会長) 酒井京子(大阪市職業リハビリテーションセンター 所長) 中村一誌(稲葉第一自治会 会長) 横塚浩一(ハウスあいファクトリー株式会社 代表取締役社長)
出席者(学校)	事務局員10名 坂田定之(校長) 今坂真悟(教頭) 吉岡宗一(事務長) 勝井玲奈(首席兼教務主任) 川島秀文(首席兼生徒指導主事) 吉村晴海(指導教諭) 高橋唯(保健主事) 藤井隆(教務部長) 井元孝弥(進路指導主事) 渡辺歩美(地域支援部長)
傍聴者	なし
協議資料	<資料1> 学校評価(案)について <資料2> 学校経営計画(案)について <資料3> 進路状況について <資料4> 学校生活について
備考	

議題等(次第順)

(1) 令和5年度学校評価(案)について (2) 令和6年度学校経営計画(案)について  
(3) 報告事項①進路状況について ②学校生活について (4) その他

協議内容・承認事項等(意見の概要)

(1) 令和5年度学校評価(案)について  
年度末の評価を○△で示し、△の項目を説明。離職者が年明けに増加してしまった。教員用図書閲覧が伸び悩む。一斉定時退庁日、1時間以内に退勤割合は85%に。課題はアンダーラインで示す。

(2) 令和6年度学校経営計画(案)について  
令和5年度に残した課題と評価△の達成できなかったところをもとに新しい指標も盛り込み案を作成。中期的目標を説明。大阪大学との連携事業については、職業学科園芸分野のノウハウを大阪大学障がい者支援チームに遠隔で伝える構想がある。また、職業学科の取り組みとして美術等の授業で考案したイラストをたまがわデザインとしてブランド化も考えている。学校経営推進費をもらえるように計画していく。創立20周年に向け令和7年度新カリキュラムの検討を着実に進めていく。

(3) 報告事項①進路状況について  
令和5年度就職率86%(50/58) 就職未定者は在留資格の問題による就労不可、障がい者就労を希望しない者、1年次途中より不登校で卒業後転居予定だが転居先が決まらず進路の話を進めることができなかったなど。障がい者就労を希望しなかった者については2月より一般求人を見ながら就職活動をはじめた。就職50人中36人が6月実習の会社に就職。2年次の聞き取りの重要性を感じている。来年度、障がい者雇用率が上がるので新規の会社より求人の問い合わせが多い状況だが、紹介可能な生徒がおらず、うれしい悩みもあった。職種別就労先について、例年同様で分布はあまり変わらず。離職者が多いので支援機関との連携の重要性を感じている。

(3) ②学校生活について  
指導案件 前回以降 3件 学校生活のしおり、生徒心得、厳守事項の見直しを行った。近年は行っていない「家庭内謹慎指導」という記述も実態に合わせて削除した。遅刻の状況について、寝坊が理由の生徒は家庭との連携強化とSSWとの相談をすすめたい。生徒会活動は活発に行われつつある。制服選定に関しては、生徒・保護者の意見を集約して検討していきたい。SSW事業は30日180時間利用した。

[協議]

- ・今年度3年生は定員割れで入学した学年。進路状況を見ると卒業生の伸びしろがあったということがうかがえる。進路に関する取り組みや生活指導において丁寧に原点を大切にいただいていると感じた。1人に対しての指導を丁寧に、また、生徒の実態をきちんと見て教員が対応していることが分かる。就労をめざす学校ということで鉛筆1本でも窃盗を見逃さない対応は必要。保護者と協力しながら社会にでる生徒をしっかり育てるという点で時には厳しい対応も必要と思われる。
- ・(保護者の立場として) 就職を考えるにあたり、こどものことを分かっているようで分かっていないと思った。こどもの希望より親の希望が大きかった気がする。親が就職するかのような行動になってしまっていた。
- ・保護者の思いと学校側のすり合わせ、丁寧な対話の必要性を感じる。
- ・就職して頑張れるのは同僚との関係性。障がい者雇用が増えてもすべて障がい者を理解してくれる企業ではないかもしれない。
- ・2年後さらに障がい者雇用率が上がる。今まで一般就労できなかった生徒も社会に出ていくことになる。在学中の社会に出る訓練は重要なので今までの内容とは変えた取り組みも必要となるのではないかと。障がいをもっている生徒が一般校への流れがあるようだが、社会に出るための職業教育を高等支援で頑張ってほしい。
- ・就労継続支援B型の支援員として働く。就労中きついことばかり言われ、耐えられず仕事をやめた利用者との会話からアフターケアの大切さを考える。卒業したら終わりではなく就ポツさんとの連携もお願いします。
- ・キャリア発達につながる支援教育の充実、大阪大学とのコラボ、たまがわブランドを前へだし、元気な学校創りをお願いしたい。

次回の会議日程

日時	令和6年5月
会場	たまがわ高等支援学校